
彼女の過去

マッコリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼女の過去

【Nコード】

N7951V

【作者名】

マツコリ

【あらすじ】

12歳でありながら、滅竜魔導士そして、S級魔導士である、彼女に秘められた、過去とは？

S級魔導士

777年7月7日午前0時0分

そう、それは私が、4歳の誕生日だった！。

???「グングニルー！どこー？」

そう、あの時は、とても、驚いた

突然、居なくなっただからだ

私は、1人だった

私の知り合いも探しにいつていたし

そこからの記憶は、ない。

なんでだろう。

不思議だな

なんか、赤の他人に引き取られた気がする

私が、一番覚えていることは

人の“死”

それしか、覚えていない！。

朝

???「おはよう！フェスト！」

???「おはよう…あむ…」

あむ「じゃあ、着替えて、ギルドに行こう！」

フェスト「うん！行こう！」

私の名前は、あむ？フェルドナー

ここは、フィオーレ王国

そして、その中の街、マグノリア
私は、その中にある、でっかいギルド、
フェアリーテイルにいるの！

あつ！私は、一応、魔導士！

滅竜魔法を使う、滅竜魔導士！

そして、なんと！

S級魔導士なの！

今日は、どんな事が、起きるんだろう

あむ「ナツー！仕事行こうー！ってあれ？ナツは？」

???「ナツなら、サラマンダー火竜を探しにいったわよ」

あむ「そんなあゝ」

フェスト「ノリ悪ゝ」

???「あむ達は、仕事行ったら？」

あむ「そうしようかな」

フェスト「その方が、いいと思うよ！ね！ミラ！……！」

あむ「じゃあ、これ行ってきます！……！」

ミラ「行つてらっしゃい！……！」

そして、帰り

あむ「いっぱい仕事したねー！……！」

フェスト「だねー！」

あむ「あっ！あれ！ナツだよね？」

フェスト「うん！そうだよ！！！」

あむ「行こう！ナツー！」

???「おお！あむ！フェスト！只今ー！」

あむ&「お帰り！ナツ」

ナツ「どこ行つてたんだ？お前」

あむ「失礼な！仕事よ、仕事！」

ナツ「どんな仕事だあ？」

???「きつと、エロい仕事だよ！あむの事だからさ」

あむ「ワイバーンの鱗を、取って来る仕事」

???「凄いねー！大変じゃない？」

フェスト「大変だよ！」

あむ「ハッピーも、今度来る？仕事に」

ハッピー「えっ！？良いの？」

あむ「うん！サポートとしてね！」

ハッピー「サポート？」

フェアリーテイル

ハッピー「サポート？何それ」

あむ「依頼を一人でこなすのは難しいでしょ。だから、2、3人いれば、楽ちゃんに仕事をこなせる。ということよ！」

ナツ「俺も、連れて行ってくれー！」

????「依頼？」

あむ「？誰？新しい子？」

ナツ「おお！忘れてた！挨拶しろよ！ルーシィ」

????「失礼な！ちゃんとするわよー！」

フェスト「いつたい誰？」

????「初めまして。ルーシィって言います。よろしく願いします。」

あむ「よろしくね！ルーシィ！…星霊魔導士だね！」

フェスト「だね！」

ルーシィ「なんでわかるの！？」

あむ「当然よ！だって、鍵がついてるし。」

フェスト「髪色的に、そうよね？」

ルーシィ「すごいわね…何気に…」

ハッピー「あむの魔法はすごいんだー！きれいだよ！相手のやられ方が」

ルーシィ「それ…いいことなの…？」

ナツ「とにかく中に入ろうぜ！」

ルーシィ「うん」

あむ「うん」

フェスト「うん」

ハッピー「あい！」

フェアリーテイル中

ざわざわ

ルーシィ「うわあ。すごい！あたし、本当に、フェアリーテイルに来たんだあ」

ナツ「ただいまー！」

あむ「ただいま！ミラ！」

ミラ「おかえり！！あむ！ナツ！ハッピー！フェスト！」

？？？「ナツが返ってきたってえ！！！」

？？？「グレイ…アンタ…どんな格好で歩いてんのよ…」

グレイ「おわっ」

？？？「これだから、品のない男どもは…ごくついやだわ」

ルーシー「あわわわわ」

マスター登場！！！！！！（前書き）

今回は、マスター登場！！！！！！

マスター登場！！！！！！

???「帰ってきたか、バカたれども」

あむ「マスター！だたいま」

ルーシィ「初めまして。ルーシィって言います」

マスター「マスターじゃ、宜しくネ」

数時間後

ミラ「ここでいいのね？」

ルーシィ「はい」

ミラ「はい！これであなたも、フェアリーテイルも魔導士よ！」

ルーシィ「わぁ！見てー！ナツ！あたしも、フェアリーテイルの、紋章入れてもらった！」

ナツ「良かったな。ルイージ」

ルーシィ「ルーシィよ！」

あむ「落着きなよ、ルーシィ。ナツだって、わざと言ったんじゃないんだから」

ルーシィ「だって」

「ナツ。どこ行くんだ？」

ナツ「仕事だよ。金ねえし」

ハッピー「報酬が、いいやつにしようね！」

ナツ「おっ！これなんかどうだ？海賊退治で、6万」だ！」

ハッピー「いいね！これにしよう！」

ナツ「！」

ロメオ「父ちゃん…まだ帰ってこないの…？」

マスター「ハコベ山の仕事じゃったな」

ロメオ「そんなに遠くないじゃないか！探してくれよ！」

マスター「自分のケツもふけねえやつなんぞこのギルドには、いらんのじゃあ！」

ナブ「おい！ナツ！リクエストボード壊すなよ！」

つかつか

ナブ「マスター、ナツのやつ、マカオ助けに行くんじゃないのか？」

ルーシィ「可哀そう・・・」

ミラ「ああいつても、本当は心配してるのよ」

ルーシィ「そうなんだ・・・」

ミラ「私たちは・・・フェアリーテイルの魔導士は・・・みんな・・・何かを抱えてる・・・傷や、痛みや、苦しみを抱えてる」

ルーシィ「傷や痛みや・・・」

ミラ「私も・・・」

ルーシィ「えっ？」

ミラ「ううん。なんでもない」

ルーシィ「・・・」

馬車

ルーシィ「でね！あたし今度ミラさんの家に、遊びに行く事になったの～！」

ハッピー「下着とか盗んじゃだめだよ」

ルーシィ「盗むかー！」

ナツ＆ハッピー「てか、何でルーシィがいるんだ？」

ルーシィ「何よ・・・いちゃ悪い？」

あむ「そりゃあもう・・・」

ハッピー「あい」

仕事

ガタッ

ナツ「！止まった！」

ルーシイ「もう着いたの？」

あむ「早くない？」

フェスト「何かあったのかな？」

ハッピー「急すぎない？止まるのが」

「すみません……これ以上馬車はすすめませんわ……」

ルーシイ「雪！？今は夏でしょ！あり得ないわ！」

あむ「ここは、夏でも雪が降るところよ」

ルーシイ「てか、寒っ！」

ナツ「そんな薄着してっからだよ」

ルーシイ「アンタも似たようなもんじゃない！」

ハッピー「オイラも？」

あむ「私も？」

フェスト「フェストも？」

ルーシィ「その毛布貸して」

ナツ「おお」

ハッピー「強引だね」

ルーシィ「ひひひひひひ開け……時計座の扉……ホログウム」

あむ「おお！すごい！」

フェスト「楽だね！星霊も」

ホログウム「あたしここにいる……と申しております」

ナツ「何しに来たんだよ」

ホログウム「何しに来たと言えば、ここに何しにきたのよ！……と、申しております」

ナツ「知らねえでついて来たのか？」

ハッピー「ドンマイだね」

ナツ「バルカンを倒すんだ」

ルーシィ「！……！！！」

あむ「ナツ！何かこつちくるよ！」

フェスト「バルカンだ！」

ナツ「さっそく、来たな！」

ハッピー「頑張れー！ナツ！」

ナツ「オラあああ！」

バルカン「うっほほほー！」

ナツ「あれー？」

ルーシ「！」

バルカン「女？」

あむ「ルーシーー！」

フェスト「あの、サル」

ハッピー「良く、ルーシィを、選んだね」

ナツ「あんなルーシィをな」

ルーシ「ひどっ」

バルカン「うっほほほほほ！」

ナツ「しゃべれんのか」

ホロロギウム「てか……助けなさいよ……と、申しております」

あむ「ナツ！助けに行こう！！！」

ロメオ（前書き）

ついに、バルカンとの決着がつく！
果たして、どっちが、勝つのか！？

ロメオ

ナツ「とにかく、ルーシイのそこへ行くぞ!」

ハッピー「あい!」

その頃ルーシイ

ホログウム「ここどこー!……と、申されましても……」

ルーシイ「あのサル、すんごい気分いいみたいじゃない……」

バルカン「女?」

……

ポン!

ルーシイ「ホログウム消えないでよ!」

ホログウム「時間です。ごきげんよう」

ルーシイ「延長よ!延長!」

ナツ「ルーシイ!」

あむ「大丈夫?」

ルーシイ「ナツ!あむ!ハッピー!フェスト!」

ナツ「おい！マカオをどこに、隠した！」

ルーシィ「わー。隠したってもう決めつけてる」

あむ「マカオー！どこー？」

バルカン「うほほほ」

ルーシィ「通じた！」

ナツ「あっ！」

あむ「おおー！」

バシッ

ナツ「おおー！」

あむ「わあ！」

フェスト「あむ！」

ハッピー「ナツ！」

ルーシィ「ちょっと！やだ……死んでないわよね……あいつ等結構身体頑丈だもんね」

バルカン「うほほほー！男いらなーい！オデ、女好き」

ルーシィ「女！女！って、うるさいわね……この、エロザル」

バルカン「うほほほ」

ルーシィ「開け！金牛の扉！タウロス！」

バルカン「牛！」

ルーシィ「タウロスは、あたしの星霊の中で、一番体力が一番ある星霊よ！」

タウロス「ルーシィさん、いつ見ても、良い乳してますなあ〜！」

ルーシィ「そうだ…こいつもエロかった……」

バルカン「オデの女をとるな！」

タウロス「俺の女？それは、聞き捨てなりませんな」

ルーシィ「そうよ！タウロス！やっちゃって！」

タウロス「俺の女ではなくて、俺の乳と言ってもらいたい」

ルーシィ「もらいたくないわよ！」

ルーシィ（ホロロギウムで、時間もいっぱい使っちゃったし大丈夫よね！）

ナツ「痛てえな……」

あむ「落とすんじゃないわよ」

ナツ「って、何か一匹増えてんじゃねえか！」

あむ「オラア！」

ルーシイ「ちよつと！アンタ等が、倒れたから、あたしが、戦ってたのよ！」

ナツ「決闘だ！」

あむ「うん！」

ナツ「火竜の咆哮！」

あむ「風竜の咆哮！」

ルーシイ「これなら、いけるかも！」

バルカン「うほほー！そんな攻撃は当たらないー！」

ルーシイ「うそ！？当たらないなんて……」

バキッ

バルカンが、氷柱を外しナツのほうに投げた

ナツ「あははー！そんな、物は、火にはきかーん！」

あむ「風で返してあげる！」

バルカンは、タウロスの、オノを持った

バルカン「うほ」

ナツ「それは、痛そうだ」

あむ「それは、返せないね」

ルーシイ「タウロスのオノ！タウロス！戻りなさい！アンタが戻れば、あの、オノは消えるのよ！」

バルカン「うほほほー！」

ナツ「当たんねえよ！」

バルカン「うっほほほー！」

ナツ「ルーシイ！平気か！」

ルーシイ「うん」

ナツ「いいか、ルーシイ。ギルドの皆は、仲間だ」

ルーシイ「来たわよ！」

ナツ「ウゼエ奴だが、グレイやエルマンも、仲間だ」

ルーシイ「わかったわよ！」

ナツ「ミラも、じっちゃんも、仲間だ」

ルーシィ「わかったわよ！わかったから！」

ナツ「ハッピーも、ルーシィも、あむも、フェストも、マカオも、みんな仲間だ」

ルーシィ「ナツ！来てるわよ！」

ナツ「だから、俺は、マカオを連れて帰るんだ！」

がしっ

ジュウウウ

どろっ

ルーシィ「自分の熱で、剣を溶かしたっていうの！？しかも、食べるし！」

あむ「さすが！」

ぶっ！

バルカン「うほほほー」

ナツ「火竜の咆哮！」

バルカン「うほほほ」

みみみみみ

あむ「何！？」

ナツ「また、何かおきんのか！？」

かつ

ハッピー「マカオだー！」

あむ「本当だ！」

フェスト「ひどい怪我……」

ルーシィ「早くて手当をしないと！」

手当中

ルーシィ「どうしよう……持ってきた応急箱だけじゃ、足りない……」

あむ「バルカンに接收されたもんね……」

ハッピー「特に腹等辺が……」

ナツが、手に火を出した

ジュウウウ

マカオ「ぐあああああ！」

ルーシー「ちょ……」

あむ「これで、良いんだよ」

フェスト「フェスト達だってこんな姿見たくないけど……これしかないんだ……」

ハッピー「それに、よく考えてみて」

ルーシー「！（確かに……火傷をさせて、出血は止まるわ……）」

マカオ「くそっ……惜しかったんだ……」

ナツ「うるせえ！ルーシー！抑えてろ！」

マカオ「19匹までは、倒したんだ……」

ルーシー「うそ！？あのサル1匹だけじゃなかったの！？」

ナツ「しゃべんな！傷かふさげねえんだよ！」

ルーシー（かなわないな……）

マカオ「20匹目に接收されて……くそっこんな姿で、あいつにどんな顔みせたら、いいか……」

ナツ「じゃべんなって言っただよ！殴るぞ！」

ロメオ「！」

マカオ「よお！ただいま」

ロメオ「父ちゃん…オレ…」

マカオ「心配かけたな…今度、ガキにからかわれたら、こういつてやれ！お前の父ちゃんは、怪物19匹倒せんのかって」

ロメオ「うん！ありがとうー！ナツ兄ー！ハッピー！あむ姉ー！フエストー！」

ナツ「おう！」

ハッピー「あい！」

あむ「またね！」

フエスト「こっちこそ」

ロメオ「それと、ルーシィ姉も、ありがとう！」

今日の天気晴れのち曇りのち雪のち晴れ

ルーシィ「あたしは、まだ、フェアリーテイルに入っただけだけど、このギルドは、むちゃくちゃだけど、このギルドは楽しいです」

ロメオ（後書き）

次回予告

ルーシイの部屋がついに決まった！！

ルーシイの部屋！！！！

フィオーレ王国

東方

マグノリノアの街

人口6万人

古くから魔法も、盛んな商業都市
街の中心にそびえたつ教会

カルディア大聖堂を抜けると、そこには、この街唯一の魔導士ギルドフェアリーテイルが見えてきます。

で！！商店街の近くにある家があたしの家
ちよつと、高いけど、さつきも言ったとおり、商店街の近くで、便利そうなの！！！！

ルーシイ「いいトコ見つかったなあ」

ルーシイ「7万にしては間取りも広いし、収納スペースも、多いし、真つ白な壁、木の香り、ちよつと、レトロな暖炉に、竈までついてる！そして、何より素敵なのは……」

ナツ「よっ！」

あむ「いいとこだねー！」

ルーシイ「あたしの部屋ー！！！！」

ルーシイ「何であんた達がいるのよー！！！！」

ナツ＆ハッピー「まわっ」

あむ「危なっ!!」

フェスト「危険だね」

ナツ「だって、ミラから、家決まったって聞いたから」

ルーシィ「聞いたから何!?勝手に入ってきていい訳!!?親しき仲にも、礼儀ありつて言葉知らないの!!?あんた達のしたことは不法侵入!!!犯罪よ!!!モラルの欠如も、いいトコだわ!!!」

ナツ「オイ...そりゃあキズつくぞ...」

あむ「ひどいね...」

フェスト「いいじゃない!!!」

ルーシィ「キズついてんのは、あたしの方よ!!!」

星靈魔導士

ナツ「仕方ない…帰るか…」

ハッピー「あい…」

あむ「バイバイー!!」

フェスト「明日ねー!!」

ルーシィ「窓から出て行って!!」

翌日

あむ「大丈夫?ルーシィ」

フェスト「顔色悪いよ」

ルーシィ「アンタ等が帰った後、まだ、アンタ等がいるか、確認してて、眠れなかったの!!」

ナツ「ドンマイだな、ルーシィ」

ハッピー「可哀そう!!（笑）」

ルーシィ「アンタ等のせいよ!!」

あむ「失礼な!!あの後、ちゃんと帰ったわよ!!」

フェスト「ちゃんとフェスト達自分のベッドで寝たもん!!」

ナツ「お前が、心配しなければ眠れたんだろ？」

ハッピー「心配せずに寝ようよ」

ロキ「君、本当にかわいいよね、メガネが潰れちゃいそうだよ」

ルーシィ「潰ちゃえば？」

ロキ「うお！ルーシィ！君、星霊魔導士!？」

ルーシィ「そうだけど…」

ハッピー「カニとか、ウシとかいるよ」

ロキ「僕たちの運命はここで、おしまいだ！さようなら!!」

ルーシィ「何か始まってたのかしら…」

グレイ「それにしても、スゲエよな、バルカンを倒したとか」

ルーシィ「それ、ナツだし」

あむ「私も活躍したよ!!!」

ルーシィ「アンタは違うでしょ!!」

フェスト「でも、ルーシィよりは、活躍したよ」

ルーシー「それは、言っちゃダメ!」

エルザ（前書き）

エルザが返ってきた！？
何か、デカイものが…

エルザ

あむ「落ち着きなよ」

フェスト「冷静に、冷静に」

ナツ「仕事行くぞ」

ハッピー「ロキが戻ってきた!!」

ロキ「ナツ、グレイ、まずいぞ!!エルザが返ってきた!!」

ナツ「嘘!？」

グレイ「マジか!!」

ルーシー「エルザって？」

あむ「最強の魔導士だよ」

ザッザッザッ

ロキ「オレ、帰るわ…」

エルザ「ただいま帰った、マスターはおられるか？」

ミラ「おかえりなさい!!マスターは定例会よ!!」

エルザ「そうか」

「エルザさん…その馬鹿でかいのなんですかい？」

エルザ「ん？ああ、これか、倒したものの尻尾を街の住民が飾りにしてくれてな、あまりにも、きれいだからここへの土産にしようと思って…迷惑だったか？」

「いえいえ！！とんでもないです！！」

エルザ「それにしても、貴様ら、また問題ばかり起こしているようだな。マスターが許しても、私は許さんぞ」

エルザ「ワカバ、吸い殻が落ちているぞ…ビジター、踊りなら外でやれ、カナ…なんという恰好で、飲んでいるんだ…ナブ…まだ貴様は、リクエストボードのまえでうろうろしているな…仕方ない…今日はここまでにしてやろう」

ルーシィ（何か色々といったような…）

エルザ「ところで、ハッピー、あむ、フェスト、ナツとグレイはいるか？」

あむ&フェスト&ハッピー「いまゝす！！」

グレイ「よ…よお…俺たちは…今日も、仲良しだよな…」

ナツ「あい……」

ルーシィ「ナツがハッピーみたいになった！！」

ミラ「二人供、昔エルザにやられて、ナツはボコボコに、グレイは全裸で歩き回っていて怒られて、ロキは、口どこうとして、半殺し」

ルーシィ「えーっ!!」

エルザ「ん？君は？」

ルーシィ「あっ！初めまして。ルーシィと言います。よろしく願います」

あむ「ちなみに、星霊魔導士だよ！」

エルザ「なるほど…君が噂の新人だな、君の事はよく聞いている、洋平ゴリラを倒したとかなんとか」

ルーシィ「それナツだし…」

エルザ「とにかくよろしくな」

キャラクター紹介!!! (前書き)

急ですけど、キャラクター紹介します!!!!!!

キャラクター紹介!!!

名前 あむ・フェルドナー

性別 女

年齢 不明

魔法 風の滅竜魔導士

特徴 濃い青色の髪をしていて、瞳は黒色である。髪はストレート。エルザよりも長い。そして、ドラゴンスレイヤー滅竜魔導士でありながら、S級魔導士である。

過去に何があつたのかは知らないが、人の“死”を怖がっている。

そして、何故だが、首に首輪をしている。

フェストも知らないらしい。

名前 フェスト

性別 女

年齢 5歳

特徴 白毛の色であり、左耳には、ピンクのリボンをしている。猫である

設定 ハッピーと同じく、6年前に送られたが、生まれる時期が遅くなっていて、5歳になったのである。

シャルルと同じように、エドラスのことを少し知ってる様子。

キャラクター紹介!!! (後書き)

以上!!

遊園地

数日後

ララバイ事件が終わり、エルザの逮捕（儀式？）、デリオラの戦い、ファントムの戦い、楽園の塔、ファ
ンタジアそして、ニルヴァーナの戦い、ウエンディたちが入った事
が終わった後

あむ「ねえ！皆！見て！」

フェスト「見て〜見て〜」

ルーシー「何それ？」

ウエンディ「紙？」

シャルル「また何かやるの？」

グレイ「チケット？」

あむ「遊園地のチケットだよ！」

フェスト「あの、有名なサードティ村の遊園地！！」

ウエンディ「わあ！！」

シャルル「今から行くの？」

ルーシィ「えっ！！あの遊園地！？」

グレイ「何であるんだ？」

あむ「ロキから貰った」

フェスト「ちなみに、ナツと、エルザには渡したって！！」

ルーシィ「行こう！！」

グレイ「何持って行くか」

エルザ「早く支度をしろ！置いて行かれないのか？」

あむ「私は準備できた！！」

フェスト「フェストも！！」

ルーシィ「準備早っ！！しかも、多っ！！」

ウェンディ「楽しみですね！！！！」

シャルル「そうかしら？」

あむ「出発進行ー！！GO！！」

フェスト「^{レッシュ}Let's GO！！」

その時、あむの過去がこれから始まるなんて、あたしは、まだ知らなかったー。

遊園地（後書き）

次回

あむの過去が今動き出す！。

あむの過去は何なのか、そして、彼女に秘められた“秘密”とは？

遊園地での被害

ここは、サーティ村。

数多くのアトラクションがあるため、今となつては人気スポットになつている

あむ「海だあ!!」

フェスト「泳ぐぞ!!」

ウェンディ「うん!!」

シャルル「暴れるのね…」

ハッピー「あいさ!!」

ナツ「おお!!」

エルザ「たくさん泳ぐぞ!!」

グレイ「おう!!」

ルーシー「うん!!」

夕方

あむ「ねえ!ここ温泉があるから、温泉に行かない?」

ウェンディ「そんなのあるの!？」

シャルル「それほど感心するものじゃないわよ」

ルーシイ「良いね!！」

あむ「エルザも行くよね？」

エルザ「ああ!！」

あむ「行くう!！」

寝る時間

ルーシイ「お休み!！」

ナツ「がーがー」

ルーシイ「!！」

あむ「……」

ルーシイ（あむ……どうしたんだろう……？）

あむ「……はあ……」

こうして、一日は終わったー

???「こいつを連れて帰ればいいんだな？」

「……そうよ。この子に間違いないわ」

「……早く連れて帰ろう。」

「……確かに……起きてしまったら困る……」

次の日

フェスト「あむが居ない!!」

グレイ「えっ!?!」

エルザ「なんだと!?!」

ルーシー「……!?!」

ナツ「えっ!?!」

ハッピー「う……そ」

ウェンディ「えっ!?!」

シャルル「まさか……」

遊園地での被害（後書き）

あむはどこに行ったのか？

そして、みんなはあむを探し出せるのかー？

あむの仲間たち

ハッピー「みんなで探そう!」

フェスト「うん!! そうだね!!」

エルザ「行くぞ!!」

グレイ「おう!!」

ナツ「行くぞ!! ハッピー!!」

ハッピー「あいさ!!」

エルザ「ルーシィ、グレイ、私たちも追っぞ」

グレイ「おう!!」

シャルル&ルーシィ「……………」

エルザ「……………シャルル? ルーシィ?」

ルーシィ&シャルル「……………」

ダッ!!!

ルーシィが走った

エルザ「ルーシィ!!」

グレイ「どこ行くだよ！！！」

フェスト「ルーシー！！待って！！」

ウエンディ「シャルル！！！」

その頃あむは――

あむ「？ここは？何処？」

「？？？「気が付いた？」

あむ「「！！！！誰！？」

「？？？「久しぶりね。あむ」

あむ「「！！！！あなたは！」

「？？？「私たちはね、命を救ったんだよ！！私たちは、本当は
医者呼びに行ったのに、戻ってきたら、誰かさんが居ないんだも
ん。驚いたわ」

あむ「そんな…私は…逃げたわけじゃ…」

「？？？「俺たちは逃げたとしか見てない」

あむ「「！！レン！！」

レン「久しいな、再会は」

あむ「……」

レン「毎日一緒にいたのだから…あんなことが起きるまではな…」

???「そうだね。あ・ん・な・こ・と・さ・え・起きなければね」

あむ「それは…」

???「そこまでいうのはやめておけ…エリ」

エリ「そうかなあ？だって、裏切られたんだよ？ユウ」

レン「確かに。裏切られたんだからな」

あむ「私は裏切ってない！！あの時は…」

ユウ「あの時は？」

???「あの時は何なんだ？」

あむ「！！シュウ」

シュウ「何なんだ？裏切ったくせに」

裏切り者（前書き）

あむが裏切った！？

どういう事！？

裏切り者

あむ「私は裏切ってないわ!!」

ユウ「見事に裏切った」

あむ「何処がよ!!」

エリ「だって、あなた逃げたじゃない!!」

シュウ「あいつが殺されたと思って」

あむ「違うわよ!!」

レン「何が違うんだ!!」

あむ「それは…っ!!それは…エリ達だって逃げたじゃない!!」

エリ「私たちは逃げてなんかいない!!」

ユウ「俺たちは、人を呼びに行ったんだ!!」

あむ「そんな…それで、助かったの?」

???「助かったさ…」

あむ「!!!」

エリ「ナイン!!」

ナイン「僕たちが人を呼びに行ったから…あいつは助かったんだ」

あむ「…うそ…あの人は…あの人は…もうダメだったはずよ!!」

ユウ「お前は裏切り者として、この奴隷にするんだ」

あむ「奴隷!？」

エリ「そうよ。生け贄よりはましでしょ?」

あむ「ましじゃないわ!!」

シユウ「裏切った貴様が悪い」

あむ「そんな……」

裏切り者（後書き）

あむが奴隷になつてしまふ。

ナツ達はそれを阻止できるのか!？

探す

ナツ達

ナツ「あむー！どこだー！」

エルザ「貴様の鼻で確かめろー！」

ナツ「それだー！！！」

フェスト「気付こうよ……」

ウエンディ「あの……皆さん……ルーシイさんと、シャルル探しませんか？」

グレイ「そうだな。とにかく、離れたままじゃ、場所はわかんないもんな」

エルザ「ナツ！！頼む」

ナツ「こつちだー！！」

ウエンディ「シャルルもですー！！」

グレイ「よしー！！」

エルザ「行くぞー！！あむはその後だー！！」

フェスト「うんー！！」

ハッピー「あいさ!!」

ウェンディ「はい!!」

一体何が!?

その頃シャルルとルーシイは―

ルーシイ「あむは…悲しい顔をしてたんだ…なぜか知らないけど…」

シャルル「今の一瞬見たのは何…?あむが…ウエンデイが…」

ルーシイ「あむの居場所は分からないけど…何か引つかかるところがあるのよね…」

その頃ナツたちは―

ナツ「ルーシイ!!!シャルル!!!」

エルザ「ルーシイ!!!シャルル!!!どこだ!!!」

グレイ「ルーシイ!!!シャルル!!!」

ウエンデイ「シャルル!!!」

フェスト「ルーシイ!!!」

エルザ「見つかったか!?!」

ウエンデイ「いいえ…見つかってません」

ナツ「どこにいやがんだ…」

グレイ「何かあったのか？」

フェスト「シャルルはあと思う…未来が見えるって言ってたから…でも、ルーシイは…」

エルザ「やはり何かあるのだな…」

ウェンディ「どうしたんだろう…？」

関係（前書き）

やっと、ルーシィ&シャルルと一緒に行動できるようになります！

関係

ルーシィ「あむのあの顔…何かあるはず…はっ！…まさか、あむの…あむの…」

シャルル「何なの…あれは…あむが…何か…関係があるの…？」

ナツ「ルーシィ…！」

ウエンディ「シャルル…！！見つけた…！」

ルーシィ「ナツ…！ウエンディ」

シャルル「ウエンディ」

エルザ「シャルル…！ルーシィ…！」

ルーシィ「エルザ…！」

グレイ「見つかったか…！」

ルーシィ「グレイ…！」

ナツ「急にどっかいくなよ…！心配したじゃねえか…！」

ルーシィ「ごめん…」

ウエンディ「とにかく無事でよかったです…！」

フェスト「そうだね…」

グレイ「後は、あむを探すだけだな…!」

ルーシィ「あのさ、昨日あたし、あむが悲しい顔をしているのを見たの…でも、涙が出ていなかったの…それってさ、そんなに悲しくなかったのか、もしかしたら、あむの過去に何か関係があるんじゃないかな…だから、今回ののはあむの過去に関係があると思う」

フェスト「そうかも…!」

ナツ「よし…!あむを探すぞ…!」

エルザ「ああ…!」

グレイ「おう…!」

ルーシィ「うん…!」

ハッピー「あいさ…!」

フェスト「GO…!」

ウェンディ「はい…!」

シャルル「ふん…!」

本当の目的

その頃あむは――

エリ「すぐには奴隷にはならないわ。仲間が助けに来てくれるかしら？」

あむ「……………れる……………助けに来る！！絶対に！！」

レン「何処にそんな自信があるんだ？」

あむ「仲間だから！！信じてるから！！信じてれば、助けに来る！！」

ユウ「へえゝ。大した自信じゃないか」

シュウ「相変わらずだな」

「???」俺たちの目的はお前の奴隷なんかじゃない」

あむ「！！」

シュウ「サース」

サース「本当の目的がちゃんとあるんだ」

あむ「本当の…目的…？」

サース「ああ」

あむ「何よ!!」

ユウ「後になれば分かる」

あむ「後!」?

レン「この先は言えないな」

エリ「しばらく待ってからよ」

あむ「どうして?」

サース「仲間の目の前で目的が…」

あむ「——ッ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7951v/>

彼女の過去

2011年11月11日04時05分発行